

## これまでの主な意見・要望に対する対応状況

平成30年度第2回～令和元年第1回（全5回） 121件

	意見・要望	対応
H30・第2回	全体 北九州市が子育てしやすい環境づくりをさらに進めるためには、行政と民間の連携が非常に重要である。	▶プランの視点の一つに「地域社会全体で見守り支える」を掲げるとともに（総論「第3章」など）、家庭、地域、学校、企業、行政それぞれの役割を記載しながら、子どもと子育てを地域社会全体で支えていく必要があることを明らかにしています。
H30・第2回	全体 数値（指標）が良くなるようにがんばっても、親子が笑顔にならないと意味がない。数値が意味のあるものになるよう、会議・施策のあり方について、検討が必要である。	▶各施策の進捗状況を客観的に検証するうえで、指標の設定は避けられないものであるが、プラン全体のテーマを「笑顔」とし、そのシンボルとなるイラストを大きく示すことで、子どもたちを始めとするみんなの笑顔のために、このプランがあるということを表現しています。
H30・第2回	全体 「私はこういう子育てがしたい」という親の希望を叶えるための施設・体制の整備に上手いやり方があると良い。現状では、親の多様化したニーズに十分対応できず、選択の幅が限られている。	▶親の様々なニーズに対応していくためには、行政だけで対応していくのは難しい。プランでは、施策（12）で、子育てサポーターやシルバー人材の活用など、地域人材の活躍の場を広げ、地域の支援体制の強化を目指すことを方向性として掲げています。こうした人材が、行政では対応しにくい部分のニーズにきめ細やかに対応していけるよう、環境整備に取り組んでいくことを目指していきます。
H30・第2回	全体 北九州市は「子育てしやすい街No.1」と評価されている。これまで以上に、本市の子育ての楽しさや魅力を伝えることで、市民にとっても、子育てに関わる人にとっても、明るい未来が見えてくる。	▶地方創生の取り組みの一環として、市外からの人の流れを呼び込むとともに、市内の方には今後もずっと住んでもらえるような魅力あるまちづくりを進めていくことが必要です。 ▶子育てしやすい街としてのイメージも定着しつつあり、これをさらにPRしていくことで、定住移住につなげていきます。なお、施策（12）の柱の一つに「子育てに関する情報が届く仕組みづくり、PRの強化」を掲げています。まちの魅力をPRするだけでなく、本市の子育て支援に係る事業の周知等に取り組んでいきます。
H30・第2回	全体 ボランティアやNPO、企業などが地域社会に向け、活発な子育て支援活動に取り組んでいる。市内の子育て支援の気運をもっと高めるため、こうした取り組みを後押しするような制度があると良い。	▶施策（12）の柱②に「子育てを支える人材の活用・育成」を掲げています。 ▶既存の取り組みとしては、「子育てサポーター」の養成を行う「子育てネットワークの充実」などがありますが、ボランティアやNPO、企業などが、より積極的に子育て支援に関わることができるよう、活躍の場の提供及びその情報発信を積極的に行っています。

		意見・要望	対応
H 3 0 . 第 2 回	全体	核家族が増えている今、子どもの育ちや成長と一緒に喜ぶ人が多ければ多いほど、子育てが楽しくなる。開放的な空間で、子育て中の人や、周囲からたくさん声をかけてもらえるような環境づくりを支援してもらえると良い。	<p>▶施策の一つに「地域における子どもの居場所づくり」（～施策（5））を掲げ、全ての子どもが、自然と足を向けることのできる、楽しく魅力ある居場所を地域の中にできるだけたくさん生み出せるよう取り組みを進めていきます。</p> <p>▶取り組みにあたっては、子どもたちが様々な大人や異年齢の子どもと関わりを持つことができる、多世代が交流する場となるよう進めていきます。</p>
H 3 0 . 第 2 回	全体	多くの人が「オール北九州」で子育てに関与できるよう、0歳から100歳までの全世代、社会全体の構造の中で子育てを考える、という視点も必要になる。	<p>▶基本理念「子どもたちの未来を育み、みんなの笑顔があふれるまち北九州」には、子どもとの関わりを通じて、北九州市の全市民が笑顔になることを目指す、というメッセージが込められています。</p> <p>▶この基本理念を、市民全体で共有できるよう、周知に努めていきます。</p>
H 3 0 . 策 第 3 回	策 第 3 回	「保育や幼児教育の維持・向上」という目標を達成していくためには、まずは保育士の確保が必要である。保育士の負担は増加している。労働条件も含め、しっかりと環境改善等に取り組む必要がある。	<p>▶施策（3）の柱①で、「保育士が働きやすい環境を整備することによって保育士確保に取り組み」と記述するとともに、「北九州市子ども・子育て支援事業計画」の4においても、「保育士の処遇改善に取り組み施設への支援を行います」と記述し、保育士の環境整備、処遇改善に引き続き取り組むことを明らかにしています。</p>
H 3 0 . 策 第 3 回	策 第 3 回	幼稚園・保育所などの場を整備したり、質の向上を図っていくことも大事だが、「親の力を育てる」ということと両輪でないといけなない。	<p>▶施策（13）をはじめ、施策（1）・（12）など、地域社会全体で親（子育て）を応援するまちづくりを進めることが、このプランの目標の一つであると考えています。（施策（13）のキャッチフレーズは、「親としての成長をバックアップ」としました。）</p> <p>▶その手段としては、育児に関する講座や、情報発信、伴走型支援など様々な形式が考えられます。今後も、各家庭の状況に応じ、効果的な取り組みの推進に取り組んでいきます。</p>
H 3 0 . 策 第 3 回	策 第 3 回	プランでは、課題や目標・実績が、数字で示されるため、どうしても数字が先行してしまう。「待機児童が増える」→「施設を整備する」の繰り返しになっている。新たな計画策定に当たっては、本市の出生数が減少している現状を踏まえ、単に施設整備を進めていくのではなく、子どもの育ち（質）の面に目をかけてもらいたい。	<p>▶令和2年度以降の5年間の教育・保育の整備計画である「北九州市子ども・子育て支援事業計画」を策定するにあたっては、過去の実績等を踏まえて、今後5年間の量を見込みました。</p> <p>▶児童数は、今後も減少傾向となることを見込まれますが、0歳児、1・2歳児の保育ニーズについては、ここ数年、児童数に占める利用希望者数の割合が上昇しており、この傾向を踏まえた推計を行いました。</p> <p>▶なお、今後については、認定こども園への移行や老朽改築、弾力的運用等により、必要な量の確保を行うこととしています。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 施 策 第 4 回		放課後児童クラブのスタッフの中には、主婦の方も多く、開所時間などについては、支える側の人の立場も含めて考えていく必要がある。	▶施策（４）の「現状・課題及び方向性」の＜方向性＞に、「時代のニーズを的確に把握しつつ、児童の生活リズムにも配慮したクラブの適切な利用時間について、検討を続けます」と記載しています。今後も、子ども、保護者、運営者それぞれの立場に配慮しながら、適切な利用時間について、検討を続けます。
H 3 0 施 策 第 4 回		放課後児童クラブは、集団生活を学び、生きる力を身につける場であり、個別に指導することで子どもが育つ、そういった場であることを、改めて考える必要がある。	▶施策（４）の「現状・課題及び方向性」に、「放課後児童クラブは、放課後に適切な遊びや生活の場を提供して、児童の健全な育成を図ることを目的としています。」とクラブの目的を明らかにしています。 ▶今後とも、放課後児童クラブが「児童健全育成の場」であることに理解を求めていきます。
H 3 0 施 策 第 6 回		青少年のボランティア活動の推進を、どのように市のビジョンや主体的な市民の形成に繋げていくかという視点が大事である。その際は、ボランティア活動を既に行っている人だけでなく、行っていない人に対するアプローチも必要である。	▶市のビジョンとして、目標２で「子どもや若者が健やかに成長し、主体性が育つまちをつくる」を掲げ、この目標を推進するための主な取り組みの一つとして、「ボランティア活動推進」を位置付けています。 ▶また、施策（６）では、「現状・課題及び方向性」の＜方向性＞の中で、子どもへの働きかけを行っていくことや、子どもが活動の中心（主体）となって、課題や問題に取り組み、達成・克服していく機会を数多く用意すること等を打ち出しています。
H 3 0 施 策 第 6 回		公的支援の対象は、主に中学生くらいまでで、18歳以上の若者に対しての助成制度がない。社会生活に困難を抱える若者は、その前段部分にあたる「青少年の健全育成に関する活動」の経験がなかったりする。そういった部分の下支えが、若者の支援に繋がる。民間のNPOなどが関われる仕組みを考えてもらいたい。	▶施策（６）「現状・課題及び方向性」の中で、体験から得られる楽しさや、集団の一員として役割を果たすことの充実感、自分が必要とされる感覚などが、子どもの主体性を生み、社会性の基礎を育むことにつながるということを記載しました。こうした体験の場を数多く提供していくことが必要であることも記載しています。 ▶なお、方向性として、子どもを温かく支え見守る「応援者」を増やす取り組みを進めることを記載しています。（具体的な手法については、今後の検討課題とさせていただきます。）
H 3 0 施 策 第 8 回		より家庭的な養護を目指し、「地域小規模児童養護施設」も増えている。施設が小規模化や地域分散化することによって、職員への負担が大きくなっている。施設の専門性、高機能化・多機能化が求められる中、職員の確保や育成が今後の課題である。	▶施策（８）の「現状・課題及び方向性」の＜現状・課題＞において、児童養護施設や小規模グループケアを行う施設では、処遇の難しい子どもを受け入れる例も多いことから、受入体制強化のため、職員の資質向上や人材育成を図る必要があることを記載しています。 ▶また、柱②においても、その方向性として、職員の資質向上等の強化等を図ることを記載しています。

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 2 回	施 策 ・ 第 8	児童養護施設や乳児院に配置されている「里親支援専門相談員」については、各施設に1名ずつ配置するなど、増員を行っていくことが理想であると考えている。	▶施策（8）の「現状・課題及び方向性」の＜方向性＞や、施策を推進する主な取り組み「里親制度、特別養子縁組の推進」の説明の中で、NPOや里親支援専門員等の関係機関とも連携した里親への一貫した包括支援（フォスタリング業務）の推進体制を構築していくことを記載しています。
H 3 0 ・ 第 2 回	施 策 ・ 第 9	児童虐待については、行政の努力もあり、「早期発見・早期対応」の取組みが進んでいる。児童虐待防止の強化のため、例えば母子健康手帳の交付時などに、虐待に関することや、子育ての相談窓口などの情報提供（冊子の配布等）を行うと良い。	▶平成31年4月1日に「北九州市子どもを虐待から守る条例」が施行されたことを受け、条例の周知を図るとともに、児童虐待の未然防止や早期発見、早期対応に必要な施策を講じていくこととしており、ご提案の件も含め、効果的な方策を検討していきます。なお、この内容については、施策（9）の「現状・課題及び方向性」の＜方向性＞に記載しています。
H 3 0 ・ 第 2 回	施 策 ・ 第 9	現プランの目標では、「児童虐待相談対応件数」を成果指標に掲げ、この数値を「減少させる」ことが目標となっているが、結果をみると、この数値は年々増加している状況である。これについては、児童虐待に対する「早期発見・早期対応」の強化という本市の目指す取組みがうまく進捗しているためであるということであるが、そうならば、もう少し丁寧に説明する必要がある。	▶現プランの成果指標（児童虐待対応件数）については、年々増加しています。これは、近年、配偶者等への暴力が児童の目の前で行われ、心理面に悪影響を及ぼすいわゆる面前DV通告など心理的虐待が増加していること、市民の関心が高まり、従来なら見過ごされていた子どもの「泣き声」や「小さな痣」、「衣服の汚れ」など、軽度の虐待やその疑いであっても、早め早めの通告が寄せられていることなどによるものと認識しています。 ▶なお、次期プランでは、成果指標を見直すこととします。具体的には、「北九州市子どもを虐待から守る条例の内容についての認知度」「ペアレントトレーニングの参加家族数」「児童虐待による死亡事案の発生件数（0件）」に変更します。
H 3 0 ・ 第 2 回	施 策 ・ 第 1 0	「放課後デイサービス」の開始により、保護者は心に余裕を持てるようになり、この結果、保護者の就労意欲の向上にも繋がっている。開所時間については、延長をしてもらえると、保護者の職業選択の幅も広がるので、今後検討をお願いしたい。	▶当該プランにおいては、個別の取り組みの方向性について詳細に示すことまでは行いませんが、この取り組みについては、利用者のニーズを踏まえながら、施策の推進につながる内容の充実に取り組んでまいります。
H 3 0 ・ 第 2 回	施 策 ・ 第 1 0	肢体不自由児の場合は、面倒を見られる人が限られる。今後、宿泊施設での受入の拡大などについて、検討してもらいたい。	▶当該プランにおいては、個別の取り組みの方向性について詳細に示すことまでは行いませんが、この取り組みについては、利用者のニーズを踏まえながら、施策の推進につながる内容の充実に取り組んでまいります。

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 2 回	施 策 1 2	子育て中の人の不安や悩みを解消するため、子育ての相談窓口で実際に受けた相談の具体的な内容（悩みや不安の情報）を広く公開して、子育て中の方に共有してもらえると良い。	<p>▶施策（12）の「現状・課題及び方向性」の＜方向性＞において、「子育ての悩みや不安の解消につながる情報を、いつでもどこでも手軽に入手できるよう・・・工夫を凝らしていきます」と記載しており、この方向性に基づいて、効果的な情報発信を検討していきます。</p> <p>▶ご提案のあった取組みについても、その実現可能性について、検討を行っていきます。</p>
H 3 0 ・ 第 2 回	施 策 1 2	インフルエンザや風しんなどの予防接種の費用、給食費の負担など、子育て家庭への経済的支援についても、前向きに検討してもらいたい。	<p>▶施策（12）の柱③で「子育て家庭への経済的支援」を掲げています。</p> <p>▶個別具体的な支援策については、ニーズを的確に把握し、現在の社会経済情勢や財政状況等も勘案しながら、検討を行っていきます。</p>
H 3 0 ・ 第 2 回	施 策 1 3	現プランの施策（4）〔次期プランでは施策（13）〕については、施策そのものと成果指標との整合性が弱い。指標については、行政として、エビデンスの必要性は理解しているが、家庭の力など数値では現れない部分について、もう少し踏み込んでも良い。	<p>▶現プランの施策（4）「家庭の教育力の向上」については、成果指標が「朝食を食べる未就学児童の割合」「就寝時間が夜10時以降の未就学児童の割合」「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」「家族の人が話をよく聞いてくれる割合」となっています。</p> <p>▶次期プランの施策（13）「家庭の育児力・教育力の向上」では、これらに加え、家庭における教育や育児の実態が見えるような指標を追加します。具体的には、「仕上げみがきをする保護者の割合」、「絵本の読み聞かせをする頻度」、「テレビやインターネット上の動画サイト等を見る時間」を追加します。</p>
H 3 0 ・ 第 2 回	施 策 1 3	ブックスタート事業（はじめての絵本事業）など、市が実施している事業は、その実施方法について、子育て家庭への細やかな配慮がなされている。こういう視点は非常に大事である。	<p>▶次期プランの施策（13）を推進する主な取り組みとして、「はじめての絵本事業」を掲載しています。引き続き、当該事業を実施していきます。</p> <p>▶なお、各施策の推進にあたっては、こうした細やかな視点を持ちながら取り組んでいきます。</p>
H 3 0 ・ 第 2 回	施 策 1 3	「子どもを社会の中で育てる」という政策を打ち出す場合、家庭や家族の役割をどう位置づけるのか、家庭や家族が多様化する中、その役割をどう担保していくのか、もう少し明確にしなければならない。	<p>▶家庭の役割はここまで、社会の役割はここまで、という線引きは非常に難しい課題だと考えています。</p> <p>▶各家庭によって状況が異なり、画一的に行政や社会の守備範囲を決めてしまうことで、支援の手が届かなくなる子どもが発生する可能性もあります。</p> <p>▶子どもや家庭の現状をしっかりと把握し、必要な対策を打ち出していけるよう取り組んでいきます。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 2 回	施策 1 3	保育の現場で使用している専門ツール（例えば、子どもの人権を守るためのセルフチェックリスト、各種ワークブックなど）を、現場のプロだけが使うのではなく、子育てに関わる全ての人に共有できる共通のものとして、活用してもらいたい。	<p>▶ 施策（13）の施策を推進するため、こうした専門家の持つノウハウを育児に生かす仕組みを検討することは非常に効果的だと考えています。</p> <p>▶ 保育士、幼稚園教諭、保健師、教員等、それぞれのもつ専門的なスキルを、家庭での実践において活用できるよう、家庭教育のあり方、情報発信のあり方について、検討を行っていきます。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	<p>「次世代育成行動計画」は、「次世代を育成する」という考え方を基に作られるものであるから、子どもが次代の親になるという視点だけでなく、20代の若者が50代になるという視点、今の親が祖父母世代になるという視点も考えられる。</p> <p>こうした視点をもって計画づくりをすることが、コミュニティを作っていくことにも繋がるし、「地域社会全体で」という理念にも沿うものになる。</p>	<p>▶ 「子どもプラン」という性格上、その対象は、子どもが中心となりますが、子どもや子育てに関わる全ての世代の人が、このプランの対象であり、プランを推進する主体であることを、メッセージとして伝えたいという思いから、基本理念を「子どもたちの未来を育み、みんなの笑顔があふれるまち北九州」とし、「みんな」という言葉を盛り込みました。この視点を市民全体で共有していきたいと考えています。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	<p>計画を誰に見てもらいたいのか、となると、行政としては「市民の皆さん」と言わざるを得ず、0歳から100歳までという範囲になる。</p> <p>プランが出来上がったのち、プランで伝えたいことを伝えていくにあたっては、それぞれの世代、それぞれの社会性、ダイバーシティの中でどう伝えていったらいいかを、絶えず考えていく必要がある。</p>	<p>▶ プランのフォーマットとしては、基本的には成人の方向け（大人向け）に作成しています。</p> <p>▶ このプランは総合計画のため、子どもの年齢、関わりのある分野など、多岐にわたります。</p> <p>▶ それぞれの立場で、このプランとどう関わっていけばいいのか、様々な側面からアプローチできるよう、プランを周知していくにあたっては、何等かの工夫を行うことができないか検討していきたいと考えています。</p> <p>▶ なお、子ども向けのわかりやすいプランの説明については、最優先で行う方向で検討します。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	<p>「次世代育成行動計画」は、若い世代、子どもに関わる人たちだけが対象というイメージがどうしても拭えない。</p> <p>世代を越えて次の世代を育てていくというのであれば、若い世代だけでなく、いろんな世代にもっと（子育て支援等）に関わってもらいたい。</p> <p>高齢者も、次の世代のために「親育ち」に関わっていくといった視点等があっても良いと思う。</p>	<p>▶ 「子どもプラン」という性格上、その対象は、子どもが中心となりますが、子どもや子育てに関わる全ての世代の人が、このプランの対象であり、プランを推進する主体であることを、メッセージとして伝えたいという思いから、基本理念を「子どもたちの未来を育み、みんなの笑顔があふれるまち北九州」とし、「みんな」という言葉を盛り込みました。</p> <p>▶ また、施策（12）では、子育て支援の人材として、「シニア世代」の参画をさらに活性化させることを方向性として打ち出しています。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	結婚、出産、育児、それぞれのライフステージで関わるプロ集団がいるが、そういったプロ集団を貫いていくような施策があっても良い。プランの中に、「誰を巻き込むのか」という視点があると面白いのではないか。	<p>▶これまで、施策ごとに評価を行うなど、子どもプランを一体のものとして捉えることがあまり行われてこなかったように感じられます。</p> <p>▶今回、基本理念のテーマを「笑顔」とし、シンボルとなるイラストも作成しました。</p> <p>▶今後は、「子どもの笑顔のために」という大きな視点から、例えば、子どもの成長過程を川の流りに喩え、伴走し続ける人、アクシデントのときに手を差し伸べる人など、一人の子どもの成長過程で、様々な分野のプロがどう関わるのか、視覚化する試みも意義深いものだと考えています。</p> <p>▶今後、プランをさらに推進していくため、また、市全体でこのプランを共有するためには、こうした試みも検討していくことは重要なことと考えています。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	<p>「地域社会全体で支援する」という考え方が、計画の基礎にあることは理解しているが、「地域社会全体で」とか「地域における」といった言葉が、各階層（基本理念、視点、施策）で重複して使われている。</p> <p>「地域」という言葉は、基本理念のレベルでは自治体すなわち「北九州市」であり、施策レベルでの「地域」とは枠組みも異なる。</p> <p>「基本理念▶基本目標▶施策」といった階層性がある場合には、同じ言葉でも、その言葉自体の意味合いというものを少し配慮するようにした方が良い。</p>	<p>▶視点では、「地域社会全体」＝「北九州市」という自治体レベルで「地域」という言葉を使用しています。「地域」＋「社会」＋「全体」と言葉を連ねることで、地域＝市全体であることを表現しました。</p> <p>▶施策レベルで使用している「地域」は、町内、校区内など、ある程度顔の見える範囲内をイメージした項目で使用するに止めることで、「地域」という言葉の使い方については配慮を行いました。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	基本理念の「支え合う」や「まちづくり」という言葉は、個性がなく、「普通ですね」というイメージしか湧かない。ぱっと見た瞬間、興味が湧くような表現にした方が良くと思う。	▶当初の案「子どもたちの笑顔と未来を地域社会全体で支え合う”まちづくり”」を修正し、「子どもたちの未来を育み、みんなの笑顔があふれるまち北九州」に変更しました。
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	全体概要で説明する機会が多くなっていくと思うので、「北九州市はこういう子育ての社会をつくりたいんだ」ということが分かるようなストーリー性があると魅力が増すと思う。	<p>▶全体概要（A3ペーパー）では、基本理念を大きく表示するとともに、この基本理念を具体化する取組みを、「視点」→「目標」→「施策」→「柱」という流れで目を追えるようデザインしました。</p> <p>▶また、シンボルとなるイラストを作成し、掲載することで、北九州市のつくりたい子育て社会のイメージを表現しました。</p> <p>▶このほか、各目標や施策がどの年齢層の子どもを対象としたものか、視覚的にわかりやすいよう図にしました。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	<p>3次計画（たたき台）では、例えば、基本目標の部分では「環境づくり」という体言止めではなく、「環境をつくる」という表現になり、「行動する」というトーンが出て、行政の意思を感じる。</p> <p>これまでの「子どもプラン」をさらに推し進めようという姿勢に関しては、全ての委員が支持していると思う。小さな文言にこだわりすぎず、進めてもらいたい。</p>	<p>▶目標については、最終的に「環境をつくる」という表現を「まちをつくる」という表現に修正しました。基本理念「子どもたちの未来を育み、みんなの笑顔があふれるまち北九州」に使用した「まち」という言葉と合わせたためです。</p> <p>▶なお、「つくる」という動的表現については、「行動する」というトーンを感じさせる表現として、そのまま使用することとしました。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	<p>全体概要について、「ユニバーサルデザイン」という言葉もあるように、誰もが一目で見分けるような、また、読み込まなくてもポイントがつかめるような、そういう工夫ができれば良いのではないか。</p> <p>多くの人にプランを知ってもらうためには、気を遣い過ぎた表現よりも、頭の中に印象に残る言葉が少しでもあった方が良い。</p>	<p>▶カラー刷りにする。シンボル「笑顔」をイラストで表現する。各施策がどの年齢の子どもを対象にしているのか、子どものイラストも使用しながらわかりやすく示す。こうした工夫を行うことで、全体概要（A3ペーパー）一枚で、プランの全体像がわかりやすく表現できるようになったと考えています。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	<p>「子どもプラン」を分かりやすくビジュアライズする、視覚化していくということは、非常に重要である。例えば、SDGsの17のゴール（及び169のターゲット）を活用するという方法もある。</p> <p>子育ての分野においても、SDGsとの関連性、位置づけも行いながら、全体像をつくり、北九州らしさを出していけると良いと思う。</p>	<p>▶カラー刷りにする。シンボル「笑顔」をイラストで表現する。各施策がどの年齢の子どもを対象にしているのか、子どものイラストも使用しながらわかりやすく示す。こうした工夫を行うことで、全体概要（A3ペーパー）一枚で、プランの全体像がわかりやすく表現できるようになったと考えています。</p> <p>▶なお、SDGsについては、子どもプランの基本理念や視点等を損なうことにならないよう、このA3ペーパーの中でSDGsとの関連性を見せるのではなく別のページで、説明することにしました。（総論部分で記述）</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	<p>「子どもの視点」で基本理念をつくるということには賛同するが、現在の事務局案「子どもたちの笑顔と未来を地域社会全体で支え合う“まちづくり”」では、まだ大人目線かなと思う。基本理念は肝心なところなので、しっかり考え、議論した方が良い。</p>	<p>▶基本理念は、みなさんの議論も踏まえ、「子どもたちの未来を育み、みんなの笑顔があふれるまち北九州」に変更し、そのシンボルとなるイラストを作成しました。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	<p>「笑顔と未来」は、表現としては良いと思うが、全体的に漢字が多く、フレーズとしては長めの印象を受ける。より端的な表現ができるようにする工夫が必要かもしれない。コピーライターの人などの協力があってもいいのではないか。</p>	<p>▶基本理念については、「笑顔」と「未来」の言葉を残しつつ、ひらがなが多めになるように変更しました。</p> <p>【変更前】「子どもたちの笑顔と未来を地域社会全体で支え合う“まちづくり”」</p> <p>【変更後】「子どもたちの未来を育み、みんなの笑顔があふれるまち北九州」</p>



		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	本市の掲げるマスタープラン「元気発進！北九州プラン」を踏まえつつ、第1次・第2次「子どもプラン」を継承しながら、さらに一歩進めるという表現を考えていく。完全な解を求めるのではなく、2次プランよりも一歩進んだかなと実感できる、そういう表現であれば良いのではないかと。	<p>▶総論部分において、この子どもプランが本市のマスタープラン「元気発進！北九州」プランの分野別計画であることを示すとともに、子どもプラン第2次計画の取組結果、成果についての総括を行い、記載しました。なお、この第2次計画の結果を踏まえ、第3次計画において取り組むべき課題についてもとりまとめを行っています。</p> <p>▶こうした内容を盛り込むことで、これまでの計画をさらに一歩進めることを目指し、3次計画が策定されることを示しています。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	全体	「子どもの笑顔があふれるまち 北九州」など、子どもが読んで一目でわかるような表現の方が良いと思う。「子どもが主体である」という意味合いは、そういう表現でも表せるのではないかとと思う。	▶基本理念は、みなさんの議論も踏まえ、「子どもたちの未来を育み、みんなの笑顔があふれるまち北九州」としました。
H 3 0 ・ 第 3 回	理念	副題（「子育て日本一を実感できるまち」の実現を目指して）は、継続して使用するという考え方のようだが、「この表現、3回繰り返しますか」という気持ちもある。 「日本一」は、子どもや親が実感したらよいのであって、副題は、もう少し易しい、本当に実現できることにしても良いのではないかとこの思いもある。	▶「日本一を目指す」というスローガンが市民に浸透し始めていること、本市の子ども・子育て支援の充実を後押ししてきたことも事実であり、目標として継続して掲げていきたいと考えています。
H 3 0 ・ 第 3 回	理念	ランキングの結果の中には、実際に本市が一番になっているものもあるが、問題なのは、市民の皆さん一人ひとりが本当に実感できているかということ。他市からの転入者ならまだしも、市内に住む人がそのことを実感するのは、なかなか難しい。 これ（「子育て日本一を実感できるまち」の実現を目指して）を大きな目標（基本理念）に掲げているが、これは答えのない、あるいは達成できない永遠の課題であるのかもしれない。 そういうものを目標にするというやり方もあるのかなとも思う。	<p>▶副題「子育て日本一を実感できるまちの実現を目指して」については、何をもち「日本一」とするのかとか、永遠に達成できない目標ではないかといったご意見もあります。</p> <p>▶その一方で、「日本一を目指す」というスローガンが市民に浸透し始めていること、本市の子ども・子育て支援の充実を後押ししてきたことも事実であり、目標としては継続したいと考えています。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 3 回	理 念	スローガン（子育て日本一を実感できるまちの実現を目指して）が定着してきた中で、次期プランにこのスローガンを掲げないとすると、「なぜ無くしたのか」「もう（日本一を）目指さないのか」「旗を降ろしてしまうのか」という声が上がることとも想定される。	▶「日本一を目指す」というスローガンが市民に浸透し始めていること、本市の子ども・子育て支援の充実を後押ししてきたことも事実であり、目標としては継続したいと考えています。
H 3 0 ・ 第 3 回	視 点	「子どもが主体」という意味は、子どもの主体性のようなものを重要視することでもあるとも考えている。 子どもは、一方的に支えられる存在ではなく、大人を支える側でもあり、「対等」とまではいえないが、ある種、「パートナー」であるとも感じている。 こういう見方をすると、「切れ目ない」という連続性には、いつまでも支えられる側にいるのではなく、育ちの中で、社会を支える担い手になっていくことも含まれる。そのための意欲を各人が生み出していけるような取組みも必要ではないかと思う。	▶目標2で「子どもや若者が健やかに成長し、主体性が育つまちをつくる」を掲げました。また、施策（6）では、「現状・課題及び方向性」の＜方向性＞の中で、子どもへの働きかけを行っていくことや、子どもが活動の中心（主体）となって、課題や問題に取り組み、達成・克服していく機会を数多く用意すること等を打ち出しています。このほか、施策（5）でも、子どもの主体性を重視することや、自発的に社会を支える担い手になっていけるような場づくりを進めるといった視点を盛り込んでいます。
H 3 0 ・ 第 3 回	視 点	「切れ目なく支える視点は良いと思う。「切れ目なく」だけでなく、包み込むような、例えば「包括性」「包摂」といったニュアンスがもう少し感じられるともっと良いと思う。	▶言葉で表現することも検討しましたが、視覚的イメージで伝えるということも良いのではないかと考え、シンボルとなるイラストで「包み込む」印象を持ってもらえるよう工夫しました。
H 3 0 ・ 第 3 回	視 点	「切れ目なく支える」に、「産褥期」も含めてもらいたい。「産褥期」の精神不安が、母親の自殺に繋がっているという調査結果も見られる。「産褥期」の母親をいかに支えていくかという視点も含めてほしい。	▶施策（1）の「現状・課題及び方向性」＜現状・課題＞において、「妊娠・出産の時期や産後間もない時期を安心して過ごせることが、親の成長を促し、これから始める子育ての生活に良い影響を与えることにつながります」「産後の心身ともに不安定な時期に・・・不安になる家庭もあり、こういった家庭の支援は重要です」との記載を行っています。この中で「産褥期（産後6～8週間）」も含めて表現しています。

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 3 回	視 点	<p>「切れ目なく支える視点」とは、やはり、国の「基本的な視点」で示すとおり、「結婚・妊娠・出産・育児」を切れ目なく支えることを意味するものであり、親としての成長まで「切れ目ない支援」に含めてしまうことについては、違和感がある。</p> <p>一方で、子は子、親は親と分けてしまうと、親子という相互作用のところが少し表現しづらくなるという面もある。</p>	<p>▶「子どもの成長と親としての成長を切れ目なく支える」という表現を、「子どもの成長と子育てを切れ目なく支える」に修正しました。</p> <p>▶子育てをする中で、親も成長していくことになりましたが、「親の成長を支える」と言わなくても、趣旨は伝わるため、「子どもの成長と子育てを切れ目なく支える」という表現に止めることとしました。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	目 標	<p>基本目標4「配慮を要する子どもや家庭を支える環境をつくる」は、基本目標1～3のいずれかの成長段階で支援を行うことになるので、1～3の適切な体系に組み込むことができれば、計画の絵として、きれいになると思う。</p>	<p>▶全体概要（A3ペーパー）については、大幅にデザインを変更し、配慮を要する子どもや家庭を支えるという目標及び関連する施策については、全ての年齢の子どもが対象となるということがわかるようにしました。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	目 標	<p>基本目標3「子どもや若者の自主性や社会性が育つ環境をつくる」については、「自主性」のところは「主体性」とした方が良い。</p> <p>「自主性」は決められたことを自ら進んでやること。これからの子どもたちには、自分で何をするかを決め、その道も自分で決めることができる、選択肢も自ら用意するといった「主体性」をもった生き方が大事になると思う。</p>	<p>▶以下のとおり変更しました。</p> <p>【変更前】「子どもや若者の自主性や社会性が育つ環境をつくる」</p> <p>【変更後】「子どもや若者が健やかに成長し、主体性が育つまちをつくる」</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	施 策 全 般	<p>今回、各施策に、キャッチフレーズをつけたということだが、各施策が優しい言葉で伝わるようになったと思う。</p>	<p>▶全体像（A3ペーパー）にはスペースの関係上、記載できていませんが、各論部分では、施策名に加えて、キャッチフレーズを掲げています。</p>

	意見・要望	対応
H 3 0 施 策 第 3 回	<p>施策（3）「幼児期の教育や保育の提供」のキャッチフレーズは、「生きる力で育つ、育てる、育ちあう」といった表現はどうか。</p> <p>生きる力は、生まれながらに持っているもので、子ども自ら育つ力があるということを強調したい。その一方で、子どもは守らなければいけないので「育てる」という部分は残す。それから、子ども同士、あるいは保育所との関係の中で「育ちあう」という視点も大事。</p> <p>こういった文言が入ると、施策（3）「幼児期の教育や保育の提供」をうまく表現できるのではないか。</p>	<p>▶以下のとおり変更しました。</p> <p>【変更前】「親子で安心、つながる保育」又は「生きる力の基礎を育む保育の場」</p> <p>【変更後】「生きる力で育つ、育てる、育ちあう」</p>
H 3 0 施 策 第 3 回	<p>施策（3）「幼児期の教育や保育の提供」のうち、柱の①は、現プラン（2次計画）では、「量の確保」→「質の向上」の順だった。それが今回（3次計画）、「質の向上」→「量の確保」の順に変更された。これについては、国において「質の向上検討会」が開かれるなど、国の動きにも沿っており良い。「量の確保」という表現そのものも外してもいいくらい「質」に重点を置いていくことが望ましい。</p>	<p>▶柱①は「教育・保育の質の向上と量の確保」とし、前プランの「量」→「質」の順を「質」→「量」の順に変更していません。</p> <p>▶なお、施策（3）の「現状・課題及び方向性」の中では、より「質」を意識した表現とするため、幼稚園教育要領や保育所保育指針等で示された三つの視点、「育みたい資質・能力」（3つの柱）、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）などを盛り込み、教育・保育の「質」の内容について理解が深まるよう記述しました。</p>
H 3 0 施 策 第 3 回	<p>施策（3）の柱の②では、「多様なニーズ」という文言があるが、これは、親にとっての「ニーズ」なのか、子ども主体で考えたときの「ニーズ」なのか。</p> <p>保育の場は、「子どもの育ちの場」であるということを忘れないようにしてもらいたい。</p>	<p>▶「ニーズ」という言葉は引き続き使用しますが、施策（3）の柱②の中の文章に、「子どもの生活リズムに十分配慮しながら」という表現を盛り込み、親にとっての「ニーズ」だけでなく、子どもの視点も勘案しての「ニーズ」であることを表現しました。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 施 策 第 4 3 回		<p>施策（４）「放課後児童の健全育成」について、タイトルに「放課後児童クラブ」の文言がなくなると、全ての子どもたちの放課後の生活確保と捉えられかねない。</p> <p>続く施策（５）には、「地域における子どもの居場所づくり」とあるので、施策（４）には、なんらかの形で「放課後児童クラブ」の文言を入れた方が良い。（例えば、キャッチフレーズを「生き生きと過ごす場、放課後児童クラブ」にする等）</p> <p>加えて、放課後児童クラブと学校との連携強化を明記することも検討してほしい。</p>	<p>▶施策（４）について、以下のとおり変更しました。</p> <p>【変更前】「放課後児童の健全育成～いきいき過ごす放課後の場～」</p> <p>【変更後】「放課後児童の健全育成～みんなで「ただいま！」元気いっぱい、放課後児童クラブ～」</p> <p>▶施策（４）の柱②及び取り組み「放課後児童クラブの質の向上」の中で、放課後児童クラブアドバイザー等の専門職の派遣を通じ、児童への対応等についてクラブと学校等との連携を促進し、クラブの魅力向上を図ることを、記載しています。</p>
H 3 0 施 策 第 5 3 回		<p>「児童館」も「放課後児童クラブ」と同様、放課後を支える活動を行っており、重要な役割を担っている。施策推進の観点から、「児童館」も施策（施策(4)又は(5)）の主な要素として位置づけてはどうか。</p>	<p>▶施策（５）「地域における子どもの居場所づくり」を推進する主な取り組みとして、「児童館の運営」を盛り込みました。</p>
H 3 0 施 策 第 6 3 回		<p>施策（６）「こころの教育、体験・学習機会の充実」について、子どもの施策は基本的には「場づくり」で、主体性を育むことであると考えている。</p> <p>とはいえ、心が先か、体が先かという議論はあると思うが、心を育てていくことも大事だと思うので、今回「こころの教育」という柱を追加することについては、方向性としては良いのではと思う。</p>	<p>▶施策（６）「こころの教育、体験・学習期間の充実」は、「学校におけるこころの教育の推進」「体験活動等を通じた学びの機会の提供・充実」「児童文化科学館の移転新設（新科学館の整備）」の３つの柱としています。</p> <p>▶柱①「学校におけるこころの教育の推進」は、学校行事を通じて人間関係の構築、自尊感情の形成等を図る取り組みであり、施策を構成する重要な要素であると考えています。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 3 回	施 策 7	<p>施策（7）「青少年の健全育成、自立・立ち直りの支援」については、柱を「どん、どん、どん」と並べるのではなく、「切れ目ない支援」のイメージが湧きやすいように、ストーリー性を持たせた柱の建て方にした方が良い。</p>	<p>▶施策（6）については、①②は非行に関連するもの、③④は自立を支援するものとししました。また、①→②は非行前→非行後、③→④は子ども→若者という成長過程、①→②、③→④という順に、切れ目なく支援していることがわかるよう、並び替えました（文言も一部修正）。</p> <p>【変更前】①有害環境から子どもを守り、非行を防止するための取り組みの推進②不登校やいじめの未然防止・解消に向けた取り組みの推進③若者の自立を支援する環境づくり④非行からの立ち直りを支える取り組みの推進</p> <p>【変更後】①非行を防止するための取り組みの推進②非行からの立ち直りを支える取り組みの推進③いじめや長期欠席（不登校）へのきめ細やかな対応④若者の自立を支援する環境づくり</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	施 策 8	<p>施策（8）「社会的養護が必要な子どもへの支援」について、特別養子縁組、養子縁組など、「子どもプラン」に盛り込むことは可能なのかわからないが、こういったことも含め検討してもらいたい。</p>	<p>▶施策（8）の「現状・課題及び方向性」の＜方向性＞の中で、「パーマネンシー保障としての特別養子縁組・・・にも取り組んでいきます」と、特にニーズの高い「特別養子縁組」について記載しています。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	施 策 1 1	<p>施策（11）「ひとり親家庭等への支援」に、柱の②として、「子どもの貧困対策」があるが、「子どもの貧困対策」は、母子家庭に限らず、全家庭に関わることなので、（この柱を体系上、どこに組み込めばいいのかわからないが、）ひとり親家庭の全てが「貧困である」との誤解を受けないような工夫が必要ではないか。</p>	<p>▶目標3「配慮を要する子どもや家庭をしっかりと支えるまちをつくる」を構成する4つの施策のうち、子ども・家庭（親）両方の支援を行う施策として代表的なものが「ひとり親家庭等への支援」であること、また、経済的な問題を抱えるひとり親が多い実態があること、施策を推進する取り組みも重なるものが多いことなどを勘案し、子どもプラン第2次計画と同様、施策（11）「ひとり親家庭等への支援」の柱の一つとして「子どもの貧困対策」を位置付けることとしました。なお、第3次計画では、「経済的困難を抱える家庭等への支援」という表現を優先して使用することとします。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	施 策 1 5	<p>施策（15）「子どもの安全を守る環境整備」について、住環境や安全・安心のまちづくりという視点は大事だと思うが、近年頻発している大規模災害を踏まえ、「災害への備え」というものをどこかに盛り込む必要があるのではないか。</p>	<p>▶施策（15）の柱②を「安全・安心を実感できる防犯・防災のまちづくり」に変更するとともに、「施策を推進する取り組み」にも、災害への備えに関連するものを盛り込みました。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 3 回	そ の 他	未婚の母について、特に若年層については、子育ての仕方もよくわからず、母親としての自覚のないまま子を持っているという現状も見受けられる。施策の柱に盛り込むべきというようなことではないが、そういう現状があることを、3次計画の中に少しでも入れてもらえればと思う。	<p>▶施策(1)「母子保健の充実」の「現状・課題及び方向性」で、「晩婚化・晩産化、<u>家族形態の多様化</u>など社会情勢が大きく変化する中、誰の支援も受けずに育児をしている親も増えており、」という記述を行い、「未婚の母」も包含する表現を行っています。</p> <p>▶未婚の母の子育てに関する現状を統計的に把握したものがなく、上記の表現に止めさせていただきます。</p>
H 3 0 ・ 第 3 回	そ の 他	国の指針がいろいろ市に下りてきている中、こういう会議の場で、それぞれの現場の声を伝えられるのは非常に良いこと。国の指針を北九州市だけが変えてしまうことは難しいと思うが、このような場で現場の生の声を聞き、しっかり検討してほしい。	<p>▶委員の皆さんの御意見を参考にしながら、プランを作り上げることができました。</p> <p>▶プラン策定後も、その進捗状況の点検・評価等にご協力をお願いします。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	全 体	各施策にぶらさがる事業(取り組み)の分類については、施策と事業(取り組み)との結びつきが密接に感じられるような整理、重複感をもたせないような工夫をやってもらいたい。	▶事業(取り組み)の名称によっては、施策との結びつきがあいまいになってしまっているもの、重複感を感じさせるものもあるようですが、その内容をより具体的に記述するなど、工夫を行いました。
H 3 0 ・ 第 4 回	全 体	各施策にそれぞれ柱を掲げているが、可能なら、柱ごとに成果指標があってもいい。そうすることで、もっと見えやすく、分かりやすく評価してもらえと思う。	▶できる限り、施策の柱ごとに指標を設定するようにしました。
H 3 0 ・ 第 4 回	全 体	指標については、なかなか数値化しにくいものもあると思う。無理やり作ることまでは必要ないが、その数値自体が、確かにその施策の成否、効果を反映できるものは、積極的に取り入れ、そうでないものは別の方法で対応するという、少し柔軟な対応をしてもらいたい。	<p>▶計画の進捗度を測る上で、客観的に判断できる指標を可能な限り設けることが必要だと考えています。</p> <p>▶今後、評価を行っていくにあたっては、この指標の推移をモニタリングしていくこととなりますが、これだけにとらわれず、プラン全体の進み具合、市民の生の声など、より重層的に評価を行うことができるよう努めていきます。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 4 回	全 体	<p>本日の議題は、個別の施策についてとなっているので仕方ないが、個別の議論をやればやるほど、プランの全体像が見えなくなってきたように思う。前回会議では、「次世代育成」という観点から、子ども→親→祖父母、家庭→子育て関連施設&amp;団体→社会という関係性が、渦巻き状に発展し、全体がステージアップしていくイメージが感じられ、興味深かった。</p> <p>各施策や事業（取り組み）も、実は大きなミッション、ビジョンの中の重要なパーツの一つであり、自分のパートのことばかりやっていると、全体のハーモニーが見えなくなってしまうようながしてならない。そういった意味でも、全体を支えていく指標とか、施策とかがあれば面白くなっていくように思う。</p>	<p>▶子どもプラン2次計画では、施策にスポットが当たりすぎているようにも感じていたところです。</p> <p>▶そこで、今回3次計画では、基本理念、視点といったプラン全体を支える骨格部分について、委員の皆様にしっかりご議論いただくこととしました。皆さんのおかげで良いものになったと考えています。</p> <p>▶これにより、施策、取り組みが基本理念、視点に照らしてどうなのか、という見方がうまくできるようになったと考えています。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	全 体	<p>これからの情報社会に対してどういう風に「子どもプラン」で対応していくのか、柱・施策の中に書きにくい部分、あるいは全体に及ぶような部分があると思う。</p> <p>そういうものは、これから5年後どういう社会になっていくのか、前書きで触れながら、プランとしての取組みの姿勢を示すというスタイルでもよいと思う。</p>	<p>▶情報社会への対応については、各施策の方向性や取り組みの中で、個別に記述することで対応します。（施策（7）（12）（13）など）</p> <p>▶当然、プランの推進、施策の推進、事業（取り組み）の効果的運営を行うにあたっては、高度情報化社会の進展も踏まえながら取り組んでいきますが、この分野は変化の速度が非常に速いため、プランの総論部分で、「時代の変化の中で新たに発生する様々な課題」という表現で包含することとしました。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	全 体	<p>重要なことは、全ての施策・取り組みが、「理念」に基づいているかを認識するためのパイプをどう描くかということ。</p> <p>こういう「理念」を目指しているのだ、ということを形にしないと、それはプランではない。</p> <p>一つの言葉で、プランを表現できる形にしたい。北九州らしさ、北九州の子どもプランを一言で言ったら何か。そういう一言につながるような「理念」を、皆さんで共有したいと思う。</p>	<p>▶皆様のご意見を参考にし、基本理念を「笑顔」をキーワードに作成しました。</p> <p>▶また、基本理念をイメージしたイラストも作成し、全市民が、子どもプランのイメージを共有できるようにしました。</p>



		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 4 回	全 体	<p>さまざまな事業の中心となる担い手が高齢化し、後継者がいなくなっているため、この「子育て」の分野では、どの事業にも「担い手育成」の視点を盛り込み、1つの投資（事業）で2つ以上の効果（事業そのものの効果&amp;人材育成の効果）を上げていくようなものにしてもらいたい。</p>	<p>▶各事業（取り組み）を実施するにあたっては、NPO、地域の人などへの積極的な働きかけ、環境整備などに取り組みます。</p> <p>▶また、担い手を育成するためには、市全体で子ども・子育て支援に取り組むという機運の醸成が必要です。</p> <p>▶プランの視点に「地域社会全体で見守り・支える視点」を盛り込むとともに、総論部分では、家庭、地域、学校、企業、行政の役割について記載しています。その中で、「地域の役割」にも言及し、地域住民が主体となった子育て支援活動を広げることを方向性として示しています。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	全 体	<p>第3次計画においても、これまで通りの拡大するばかりの事業展開になるのではと不安も感じている。</p> <p>マンパワーの数は減る一方である。</p> <p>全てをカバーすることも大切であるが、問題を生み出す原因を見出し、マンパワーの集中と、長く続けるための次代を担う人の育成を視点として入れ込むと、北九州らしいプランになるのではないか。</p>	<p>▶プラン総論部分「5 計画の推進」において、「行財政改革の視点」という項目を設けています。この中で、「選択と集中」を図ることを方向性として示しています。</p> <p>▶また、総論部分「第3章」（1）基本理念の説明の中で、「子どもは次代を担う存在であり、わがまち北九州の将来を支える存在となる大切な財産、北九州市の宝」であることを記載しています。そして、「子どもの成長と子育てを『オール北九州』で応援」していくことを謳いました。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	全 体	<p>どこかで、「主語」が子どもにあるようなことがあると良いし、どこことなく、子育ての主体が、母親に偏ってしまっているようにも感じる。</p> <p>「産後うつ対策」の場合でいえば、母親が気を付けるべきことなのか、小児科の先生が気を付けるべきことなのか、「いや父親もちゃんと気を付けておかないといけないのでは」というように、「産後うつ」の兆候を、まず夫が理解しておくとか、そういった説明も、情報発信するにあたっては大事なことと思う。</p>	<p>▶施策（1）の「現状・課題及び方向性」の中で、「妊産婦とその夫（パートナー）や家族が、・・・安心して出産・育児ができる切れ目ない支援」という表現を追加しました。</p> <p>▶また、全体像（A3ペーパー）では、夫と妻（妊婦）の二人を並べたイラストを掲載し、産前から父親も子育ての主体であることを視覚的に表現しました。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 4 回	全 体	<p>育児に関し、市が手取り足取り教えてくれるのは、親として「楽になる」ので良い面もあるが、親自ら考えて子育てすることができなくなっていくことに不安も感じる。</p> <p>市が手を出し過ぎて、物事を考えない子が親になり、その親が次の代の子を育てていくということになると、少し怖い気もする。「手探りで子どもを育てていく」「親子で学び合いながら成長する」という視点は大事にしたい。</p> <p>「子育て日本一」で、手厚くすることもいいが、自分の子どもは自分で育て、最後まで責任を取るという考え方も踏まえながら検討をしてほしい。</p>	<p>▶プラン総論部分において、地域社会全体で子どもとその家庭を支えていくことを示していますが、その前提として、「子育ての第一義的責任は保護者」にあることを明記しています。</p> <p>▶しかし、現在においては、核家族化や地域での人間関係の希薄化など、社会情勢の変化に伴い、過去のように、家庭のみでは子育てが難しくなっていることも事実です。</p> <p>▶こういう現状を踏まえたうえで、地域社会全体で子ども・子育てを支援するまちづくりを進めていくという方向性を、これからは打ち出していきたいと考えています。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	全 体	<p>「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」という形で策定を行うにあたって、北九州市はまさにイクボス宣言をしたりと、非常に先進的な取り組みを、市長以下実践しているところなので、そういうものが反映されると良い。</p> <p>第3次計画策定に向け、この会議としても、ある種の姿勢というものを何か主張したほうが良いと思う。</p>	<p>▶施策（14）「子育てと仕事との両立に向けた環境づくり」の「現状・課題及び方向性」「施策の柱」の中で、「ワーク・ライフ・バランス」の浸透度（アンケートの結果）なども示しながら、その方向性として、「ワーク・ライフ・バランス」「イクボス」等の取り組みを引き続き進めていくことを示しています。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 1	<p>施策（1）「母子保健」に関して、昨年国会で「成育基本法」が成立したことに伴い、今後、全ての妊婦、子どもに対する切れ目ない支援を確実に進めていくことがより強く求められることとなっている。今後の母子保健の取組みにおいては、特に、「産後うつ」対策や「産後ケア」に力を入れ、切れ目ない支援に「抜け」がないようにしていかなければいけない。具体的には、「産後うつ」に関しては、現在、「のびのび赤ちゃん訪問事業」で、4か月以内に保健師などが自宅訪問することになっているが、産後1か月など、もっと早期に対応できるよう公的な支援をお願いしたい。また、「産後ケア」については、アウトリーチ型ではなく、デイケア・ショートステイ型で、妊産婦さんを施設内でケアする取組みについて公的な支援を検討してもらいたい。</p>	<p>▶施策（1）「母子保健の充実」に掲載の取り組み「妊娠・出産等に関する相談支援事業」を拡充することとし、記述に「また、妊娠・出産、育児期を通して、切れ目なく母子を支援することができるよう、<u>産後ケア事業をはじめとした産前・産後サポート体制や相談機能を充実する。</u>」を追加しました。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 1	<p>施策（1）の柱に、「乳幼児の健やかな発育・発達の支援」という言葉があるが、これは、子どもが一步一步ステップを上がっていく状況を親御さんに伝えていく中、例えば生後4か月、虐待が増えるのは、子どもの泣き声が大きくなることで、でも「それはすごく元気に育っている証拠だよ」ということを理解してもらおうのが、本当の意味での支援だと思う。</p> <p>「子どもはかわいい」「子育ては楽しい」と思えるような部分が増えれば良いのでは。</p>	<p>▶子どもはみんなを笑顔にする存在であることを基本理念に盛り込むとともに、施策（1）「母子保健の充実」の「現状・課題及び方向性」の中では、「産前産後は、新たな命との出会いに喜びを感じる・・・」という表現を追加しました。また、施策（12）「子育てを応援する体制づくり」の「現状・課題及び方向性」の中では、子育てを楽しんでいる保護者の割合が9割程度あることなども掲載しています。</p> <p>▶このほか、赤ちゃんや幼児などのイラストを掲載し、子どもは「かわいい」「楽しい」をイメージさせる工夫を行っています。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 2	<p>施策（2）の予防接種について、高齢者と同様、子どもたちにも、インフルエンザの予防接種の経済的な負担軽減策を図ってもらえないか。</p>	<p>▶予防接種は、法に基づく国の制度の中で実施する考えであり、現段階では、国の状況を注視していくことに止めたいと考えています。</p> <p>▶厚生労働省の審議会において、社会全体の流行を抑止できるほどの研究データがなく、平成6年の改正により、対象外となった経緯もありますので、現時点では対応が難しい状況です。</p>

	意見・要望	対応
H 3 0 施 策 第 3 4 回	<p>施策（3）のうち、病児保育について、施設がもっとあった方が良く感じる区もある。</p> <p>設置を行う医療関係者の協力が必要だとは思いますが、より利用しやすくなるよう、きめ細やかに、数値目標を設定した上で、数も増やしてもらいたい。</p>	<p>▶現在、病児保育、市内12カ所で開催しています。「北九州市子ども・子育て支援事業計画」において、これまでの利用実績等を踏まえ、今後5年間の「量の見込み」を算出しました。</p> <p>▶利用ニーズが増加することが見込まれるため、医療機関と協議しながら、14か所まで増やしていきたいと考えています。なお、設置区については、八幡西区と戸畑区を候補として、考えています。</p>
H 3 0 施 策 第 3 4 回	<p>病児保育については、インフルエンザの流行期など、需要が集中するシーズンへの対応が必要である。</p> <p>施設を増やすのか、それとも一時的に増設するような方法で工夫できるのか、ぜひ検討してもらいたい。</p>	<p>▶医療機関の協力が必要であり、今後の検討課題とさせていただきます。</p>
H 3 0 施 策 第 3 4 回	<p>施策（3）では、「生きる力で育つ・育てる・育ち合う」という表現を盛り込んでもらっているが、全体的に、各施策・取り組みをみても、「育つ」「育ち合う」という表現が少ないように感じる。</p> <p>現場としては、子どもが育つ素晴らしさ、自分が育つ喜びといったものを味わってもらいたいと思っているが、施策の表現は「多様なニーズ」＝「保護者のニーズ」となっている。子どもの視点はどこにいったの、と感じてしまう。</p> <p>「多様なニーズ」は「保護者のニーズ」だけではない。「子どものニーズ」だってあるのだということ。「保育サービス」という言葉が親の都合のいい言葉であってはならない。</p>	<p>▶施策（3）「乳児・幼児期の教育や保育の充実」、施策（5）「地域における子どもの居場所づくり」、施策（6）「こころの教育、体験・学習機会の充実」の「現状・課題及び方向性」について、文章を追加しました。</p> <p>▶施策（3）では、3つの視点や、「育みたい資質・能力」（3つの柱）、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）など、具体的な育ちのイメージを盛り込み、こうした子どもの育ちのために取り組むことを記載しました。</p> <p>▶施策（5）については、「現状・課題及び方向性」などで、「主体性」「社会性」などの言葉を使い、子どもの居場所が子どもの育ちの場であることを表現しました。</p> <p>▶また、施策（6）についても、「人と触れ合うことの楽しさ」「集団の一員として役割を果たすことの充実感」「好奇心を刺激され、もっと学びたいを思う感覚」など、具体的な子どもの成長の様子を記述し、その成長を促すために取り組んでいくことを記載しました。</p> <p>▶施策（6）の柱②については、「保育サービス」と「保育」に修正しました。</p>
H 3 0 施 策 第 4 4 回	<p>施策（4）の放課後児童クラブに関して、「放課後支援員」の配置については、国の有識者会議において、おおむね40人のクラスに2人以上配置するという現在の基準を、自治体の裁量に委ねるべきとの提言がなされたが、本質的には、質を上げることを前提に取組みを進めてもらいたい。</p>	<p>▶市では基準を条例で定めています。現時点で基準を変更する予定はありません。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 5	<p>施策（５）「子どもの居場所づくり」に関して、地域密着型の高齢者施設では、地域交流スペースをつくり、近隣住民との交流の場づくりを進めており、「多世代交流をしたい」「子どもたちと一緒に何かしたい」という施設は多い。</p> <p>子どもの居場所づくりを検討するにあたっては、高齢者施設に加えその他の施設等も含め、地域の資源をうまく活用した連携策も併せて考えてもらいたい。</p>	<p>▶施策（５）「地域における子どもの居場所づくり」の「現状・課題及び方向性」で、「子どもの居場所が多世代交流の場となるよう取り組む」ことを記載しています。また、「居場所を、地域の中にできるだけたくさん生み出せるよう、地域の人々の力を借りながら取り組む」ことも併せて記載しています。</p> <p>▶また、施策を推進する主な取り組みに、新規に「子どもが主体的に遊べる環境づくりの検討」を挙げ、その中で、様々な社会資源を活用した取り組みを進めていくことを記載しています。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 6	<p>施策（６）の青少年ボランティアステーション等に関して、ボランティアの活動体験（件数）が増えていることは、「ボランティア、なぜやっているの？」などと言われていた時代から比べると、本当に良くなっていると思う。</p> <p>こういった人たちを社会の担い手に育てていくような指向性・ベクトルを付けていくことも必要ではないか。</p>	<p>▶施策（６）「こころの教育、体験・学習機会の充実」の「現状・課題及び方向性」で、ボランティア活動を含む「体験」を通じて社会性や主体性が育つことを記述しています。</p> <p>▶また、「施策の柱」②「体験活動等を通じた学びの機会の提供・充実」の中で、「次代を担う青少年が社会との関わりを自覚しながら、自己を確立・向上していけるよう」という表現を行い、社会の担い手に育ていけるよう取り組むことを記述しています。</p> <p>▶この方向性に則って、取り組みを進めます。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 6	<p>今の若者にあった情報発信ツールを検討することも必要。</p> <p>SNSの匿名コミュニティに救われることもある若者もいる。どういったツールを活用するのか検討が必要だとは思いますが、これまで通りのガイドブックなどを活用するやり方だけでなく、FacebookやTwitterなどの効果も研究しないといけない。</p>	<p>▶施策（６）「こころの教育、体験・学習機会の充実」及び施策（７）「青少年の非行防止や自立・立ち直りの支援」といった若者を対象とした施策の推進にあたっては、若者に届く情報発信・啓発のあり方について検討を行うことが当然必要となります。また、相談を含めた支援体制についても、時代にあった若者が利用しやすいものとしていくことが求められます。</p> <p>▶SNSのツールの活用についても、こうした検討を行う中で、考えていくこととします。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 7	<p>施策（７）に関連して、ゲーム依存の問題が、今後かなり深刻になっていくと考えている。こうした依存の問題が、不登校や家庭内暴力などの社会問題化していく前に、初期の段階で、親御さんが家庭内でどういうルールづくりをするのか、まず親に対する発信・教育をしていかないといけない。</p>	<p>▶施策（７）「青少年の非行防止や自立・立ち直りの支援」の「現状・課題及び方向性」で、児童生徒のスマートフォンの所持率が増加していることに触れつつ、施策を推進する主な取り組みに「ネットトラブル等防止及びスマートフォンの適正利用の推進」を掲載し、この中で、スマートフォンの適切な使用について、児童生徒や保護者への啓発に取り組むこと、スマートフォンやゲーム依存の防止啓発等に取り組むこととしています。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 8	<p>施策（8）の児童養護施設に関して、子どもたちは、一定の年齢になると、就職したり進学したりして退所していくが、1～2年経つと、何割かの子どもたちがその職場等を離れてしまい、派遣や季節労働などの仕事に転じているという現実がある。</p> <p>児童養護施設を卒園した子どもたちのうち、就職して10年、20年と仕事を続けているというのはそれ程多くない。退所後も職員が関わるが、限界があるのが現状。</p> <p>すぐ対応となるとなかなか難しいとは思いますが、退所した後の子どもたちの支援について、もう少し考えてもらえればと思う。「ハナセール」という相談機関もあるので、ぜひプランに盛り込み、しっかりPRしてもらいたい。</p>	<p>▶施策（8）「社会的養護が必要な子どもへの支援」の「施策の柱」②の中で、「生活や就業上の問題を抱える退所者への生活相談事業の実施」について記載しています。</p> <p>▶また、施策を推進する主な取り組みとして、児童養護施設等の退所者を対象とした、生活面、就労面の支援を行う「社会的養護自立支援事業（生活相談の実施等）」を掲載し、こうした取り組みを行っていくことを、プランの中で明記しています。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 9	<p>施策（9）児童虐待に関して。</p> <p>虐待は世代間で連鎖すると良く聞く。虐待の早期発見、早期対応は当然必要だと思うが、これに加えて、虐待を受けた子どもが大人になるまでの、フォローをしっかりとやってもらいたい。</p>	<p>▶施策を推進する主な取り組み「子ども総合センターの運営」や、「家族のためのペアレントトレーニング事業」の中で、虐待を受けた子どもに対するカウンセリングなどの心理的ケア、親に対するトレーニングプログラムなどを行っていきます。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 1 0	<p>施策（10）の放課後デイサービスについては、親御さんにとっては、一定の時間、家庭以外で見てもらえるというメリットがある一方、子どもの視点から見ると、家にいる時間が短くなり、子どもにかかる負担が増すという面もある。</p> <p>ここのバランスは微妙で、きめ細かな視点が必要となる。支援の充実を図るにあたっては、この点もきちんと考えてもらいたい。</p>	<p>▶施策（10）「障害のある子どもや発達気になる子どもへの支援」の「現状・課題及び方向性」の中で、「障害のある子どもの支援にあたっては、・・・一人ひとりのニーズに対応した細やかな対応を行うことが必要である」という記載を行っています。</p> <p>▶施策を推進する主な取り組み「障害児通所施設の機能強化」など、事業の質の向上に取り組む中で、こうした点についても配慮を行っていきます。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 1 0	<p>施策（10）に関することがどうかかわからないが、長期に病院で療養中のお子さんについての記載があまり無いように思う。プランの中で、うまくフォローできればと思う。</p>	<p>▶子どもプラン第3次計画では、施策の柱を「心身の発達が気になる子どもの早期発見と相談・支援体制の強化」「障害のある子どもの受け入れ体制の強化」の2つとし、この柱2つに関わりの深い取り組みをピックアップして掲載することとしました。</p> <p>▶当然、ご提案の取り組みも重要なものであり、これについては、「北九州市障害者支援計画」の中に掲載しています。この中でフォローしていきます。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 1 3 ・ 7	<p>施策（13）、（7）に関連して、大人の社会では、SNSやゲームなど、スマホに触れることが日常になっているが、例えばスマホを見ながら授乳するか、小さな時からゲームやLINEをさせるとか、子どもとスマホとの付き合い方が問題となっている。</p> <p>子育てに関する情報をスマホで得る機会も増えているが、子どもだけでなく、子育てを行っている大人に対しても、程よいスマホとの付き合い方について、正しい知識を学んでもらう機会を作っていくことが必要だと感じる。</p>	<p>▶施策（13）「家庭の育児力・教育力の向上」の「現状・課題及び方向性」の中で、「保護者向けの学習機会の提供や情報発信については、・・・メディアリテラシーに関するもの・・・などをうまく盛り込むよう心がけます。」と記載しました。</p> <p>▶なお、現状として、「家庭教育学級」ではスマートフォン等、子どもとメディアの関わり方をテーマとした講演等を数多く開催しています。</p> <p>▶また、施策（13）の中に、取り組み「ネットトラブル等防止及びスマートフォンの適正利用の推進」を掲載し、この中で、児童生徒・保護者への啓発に取り組んでいきます。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 1 3	<p>施策（13）に関して、家庭の子育てをレベルアップしていくためには、単に、朝ご飯を食べて、早く寝て、子どもに絵本を読んで、ということだけではない。親として、親になるための支援といったものを盛り込んでいく必要があると思う。</p>	<p>▶施策（13）「家庭の育児力・教育力の向上」の成果指標については、生活習慣に関すること、親子のコミュニケーションの状況に関するものを測るものを揃えています。今後、家庭の育児力、教育力を図るもっとよい指標があれば、追加することも検討したいと考えています。</p> <p>▶なお、親になるための支援については、基本的には、啓発、学習、情報提供などが主となると考えられます。取り組み「家庭・地域への啓発事業」の内容の充実に取り組んでいきたいと考えています。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 1 3	<p>小さい頃からスマホを見続けると医学的な面での影響もあるという報告もある。今後、AIなど、急速な情報技術の発展に伴って、子どもを含め市民を取り巻く環境も大きく変化していくことが予想される。</p> <p>こういうものに対する正しい知識、対応が必要になるという視点は、「子どもプラン」に盛り込んでおく必要がある。</p>	<p>▶総論で、子ども・子育て支援に関する市民アンケート調査の結果を掲載していますが、この中で、子どもがテレビやインターネット等を見る時間を集計したデータを示しながら、「スマートフォンの普及等に伴い、子どもがゲームや動画等に触れる機会が増えている」ことを説明しています。</p> <p>▶中学・高校生の保護者の約6割が「子どもの生活で気になること」として、「テレビゲーム機やスマホ等への依存」を挙げていることも併せて紹介しています。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 1 4	<p>施策（14）に関係するが、子どもは、病気るとき、苦しいときは、やはり親にそばにいてほしいもの。</p> <p>病児保育はすごく大事だが、本来プランで謳うべきは、「子どもがインフルエンザの時は、せめて2日は会社を休みにしよう」とか、「水ぼうそうも1か月もかかるわけではないから、何日間かは会社をお休みしてもいいよね」ということではないか。</p> <p>本当にワーク・ライフ・バランス、働き方改革というのであれば、「子どもは病気をするもの。その時にそばにいてほしいのは親。」ということ、どこかに盛り込めるようなプランであって欲しいと思う。</p>	<p>▶施策（14）「子育てと仕事の両立に向けた環境づくり」の「現状・課題及び方向性」の中で、「子育てを楽しみ、子どもの成長に喜びを感じるためには、保護者が男女を問わず子育てに向き合うことができる時間、親子で過ごす充実した時間を持つよう環境の整備を行う必要があります。」という記述や、「子育て世帯の長時間労働を解消し、子どもと向き合う時間を十分取れるよう、また子どもの病気など、生活上必要なときに休める職場環境づくりを進める必要があります。」といった記述を加えました。</p>
H 3 0 ・ 第 4 回	施 策 1 4	<p>子育てに関しては、親の責任、行政の責任だけでなく、企業の責任も大いにあるように感じる。</p> <p>「働き方改革」で国はいろいろやっているが、実際問題として、親が働く企業がワーク・ライフ・バランスを積極的にやらないと、なかなか子どもまで目が見えないというのが、現実だと思う。</p>	<p>▶施策（14）「子育てと仕事の両立に向けた環境づくり」の「現状・課題及び方向性」の＜現状・課題＞の中で、「仕事と生活の調和が取れていると思う人の割合」が全体の5割程度に止まっていること、また「仕事と子育ての両立で大変だと感じる」ことでは、「急な残業が入ってしまう」「子どもが病気るとき休みづらい」などと回答した割合が高いことなどを紹介しています。</p> <p>▶また、＜方向性＞では、「ワーク・ライフ・バランス」の取り組みを進め、企業に対する効果的な働きかけや広報活動を行っていくことを打ち出しています。</p>
H 3 0 ・ 第 5 回	理 念	<p>&lt;基本理念について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念を、「文字ではなくて視覚化したほうがよい」という前回会議の意見を反映した案（笑顔イメージ化）になって、良くなったと思う。</li> <li>・基本理念に「笑顔」が盛り込まれたことで、「実際にこういう施策に取り組むと、みんなが笑顔になれるかな？」と考えることができる。</li> <li>・「笑顔」というキーワードが理念に盛り込まれたことは、非常に良かったと思う。</li> </ul>	<p>▶笑顔をキーワードに基本理念を作成し、そのイメージをイラストで視覚化することで、みんなで共有できるようになったと考えています。</p> <p>▶このイメージを活用しながら、市全体で子ども・子育てを応援する機運を高めていきたいと考えています。</p>



		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 5 回	理 念	<p>&lt;副題について&gt;</p> <p>「子育て日本一を実感できるまちの実現を目指して」については、「既に本市は日本一を実現している」という意味合いも込めて、例えば「維持・向上を目指して」「さらなる向上に向けて」といった表現に変更してはどうか。</p>	<p>▶副題「子育て日本一を実感できるまちの実現を目指して」については、何をもち「日本一」とするのかとか、永遠に達成できない目標ではないかといったご意見もあり、「日本一をすでに実現している」という意味合いを含めた表現に変えることは難しいと考えています。</p> <p>▶その一方で、「日本一を目指す」というスローガンが市民に浸透し始めていること、本市の子ども・子育て支援の充実を後押ししてきたことも事実であり、目標としては継続したいと考えています。</p>
H 3 0 ・ 第 5 回	視 点	<p>&lt;視点について&gt;</p> <p>・4つの視点のくくり方が分かりやすくなった。</p> <p>・本市は「誰1人取り残さない」という理念をもつSDGsの達成に向け、取り組みを進めているが、まさにこの子どもプランの中で、SDGsの理念がいろいろな形で反映されているということが読み取れるような、そういう視点になったように思う。</p>	<p>▶子どもの権利を大切にするという視点や、すべての子どもと家庭を支える視点などは、国連の子どもの権利条約とのつながりや、SDGsとの関連性を感じることでできる視点、本市の子ども・子育て支援の方向性を指し示す良い視点になったと考えています。</p>
H 3 0 ・ 第 5 回	全 体 像	<p>&lt;全体像について&gt;</p> <p>・子どもの発達段階で、それぞれの年齢・世代にとって必要な施策が分かりやすく示されている。</p> <p>・全ての年齢・世代を通した施策についても、見やすい形で表現できている。非常に柔らかい色合いで、しかも「妊娠～出産期」「乳児～幼児期」等と時系列で、絵で表現できている、素晴らしい出来になっていると思う。</p> <p>・本当に見やすい資料となり、「切れ目ない」という感じで見ることができ、良いものができたと感じる。</p>	<p>▶対象年齢が異なる15の施策をいかにうまくまとめて全体像を見せるかが課題でした。</p> <p>▶施策(15)「子どもの安全を守る環境整備」は、すべての施策の基盤となるもので、最も底辺に配置しました。</p> <p>▶その上に、全ての年齢の子ども及びその家庭を対象とした施策をのせ、さらにその上に、妊娠期→乳幼児期→学童期→青少年期という子どもの成長段階に併せて、施策を並べました。</p> <p>▶一つひとつの施策の対象が誰なのか分かりやすくなり、「切れ目なく支援する」という姿も見えるようになったと考えています。</p>
H 3 0 ・ 第 5 回	イ ラ ス ト	<p>&lt;イラストについて&gt;</p> <p>・虹の色の順番や数が正確でないことは気になるが、虹のようなもの(屋根・ドーム等)と捉えれば良いし、プランの目標のカラーと合わせているのなら、このままでも良いかもしれない。</p> <p>・虹のような挿絵は、見る人が想像したら良いので、このままでも良いと思う。</p>	<p>▶挿絵は、5つの目標のカラーを盛り込んだものです。特に5つ目の目標「子どもが安全安心に暮らせるまちをつくる」は、他の4つの目標の基盤となるもので、挿絵では地面の色(緑)と合わせています。虹というよりは、施策のカラー5色を表現したものです。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 5 回	目 標	プランに人と人のつながりを表す文言があると、より優しいイメージになると思う。例えば、目標4に「人と人がつながって」といった言葉を加えてみてはどうか。	<p>▶目標4は、合計3つの施策で構成されているため、「人と人がつながって」という表現は、施策(12)の柱①②④などには適合するように思いますが、その他の施策に適合するか微妙なところもあります。</p> <p>▶なお、施策(12)の「現状・課題及び方向性」の中に、「地域での<u>人のつながり</u>など、家族や友人のように顔の見える関係で、気軽に心を開いて相談できる人・場所がどこにでもあ るような環境をつくっていくことが必要である」という文章を記載しました。</p>
H 3 0 ・ 第 5 回	指 標	<p>・成果指標については、「満足度」など、利用者や市民のことを考えており、非常に良いと思うが、一方で、本市の強い思いを理解してもらえ るような、市民を引っ張っていくような、そういった「攻め」の指標があ っても良い。</p> <p>・子ども・子育て会議がプランを作っていく主体性みたいところを示す、 そういった成果指標があってもいいのではないかと。日本一が実感でき るよう、こういうことをやっているということを示せるような成果指 標。これがPR、情報発信にもつながっていくことになる。</p>	<p>▶「攻めの指標」については、本市の取り組みに他市にはないオリジナルの施策を考 える必要があると考えていますが、現時点では未定です。</p> <p>▶事業(取り組み)レベルであれば、他市にはない独自の取り組みも生み出しやす いとは思いますが、施策レベルになると、今すぐには難しいかと考えていま す。</p> <p>▶施策を大きく推進することにつながる事業を検討するなかから、「攻め」の指 標も生まれてくると考えており、例えば、新科学館のコンセプトの中から、 独自性の高い本市ならではの指標の検討などができればとも考えていま す。</p>
H 3 0 ・ 第 5 回	施 策 ・ 第 1	施策(1)の母子保健の充実について、平成29年4月に市町村に努力義務として定められた「子育て世代包括支援センター」の記述がない。記載した方が 良いのではないかと。	<p>▶施策(1)「母子保健の充実」の「現状・課題及び方向性」の中で、「妊娠初期から出産・子育て期において、子育て世代包括支援センターを拠点に、・・・」という記載を追加しました。</p> <p>▶また、「施策の柱」①に「子育て世代包括支援センターでの、・・・切れ目ない相談・支援体制の構築を、・・・」という形で、追加・修正しました。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 3 5 回	施 策 3	<p>施策（3）「乳児・幼児期の教育や保育の充実」については、「現状・課題及び方向性」に、幼稚園教育要領や保育所保育指針が紹介され、「育みたい資質・能力」（3つの柱）や、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）についても詳細に記載してもらい、感謝している。</p> <p>教育・保育の現場で実践していることや望んでいることが盛り込まれた形となっており、評価したい。</p> <p>なお、<u>乳児（0歳児）の3つの視点「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」</u>についても、ぜひ記載してもらえばと思う。</p>	<p>➤施策（3）「乳児・幼児期の教育や保育の充実」の「現状・課題及び方向性」の冒頭の文章を、「乳児・幼児期の教育や保育は、・・・生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、3つの視点、すなわち「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」を持つことが重要となります」という形で、追加・修正しました。</p>
H 3 0 ・ 第 3 5 回	施 策 3	<p>施策（3）の柱②「幼稚園、保育所等における多様なニーズに対応した保育サービスの充実」については、今回「保育サービス」が「保育」に変更されており、評価したい。</p>	<p>➤預かり保育、延長保育、休日保育いずれも「保育」であり、「サービス」という文言はご指摘のとおり削除しました。</p>
H 3 0 ・ 第 3 5 回	施 策 5	<p>施策（5）「地域における子どもの居場所づくり」の＜方向性＞の記載の中に、『「居場所で過ごした子ども達が、その後、先輩として、頼れる大人として、その居場所を支える存在となっていく」という文章がある。</p> <p>「子どもの自立につながるような居場所であってほしい」という思いを盛り込むため、この文章に「自発的に」という言葉を加えてもらいたい。</p>	<p>➤施策（5）の「現状・課題及び方向性」＜方向性＞の記述は、「～頼れる大人として、自発的にその居場所を支える存在となっていく～」とし、「自発的に」という言葉を追加します。</p> <p>➤施策（6）の成果指標にある「人の役に立つ人間になりたいと思う」という感情は、義務感で「になりたい」と思うものではなく、人の役に立ったときに喜びを感じる、そういう経験を重ねることで自然と湧いてくるものであると考えます。教育プランの指標にも設定されており、「子どもプラン」にもそのまま指標として採用したいと考えています。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 5 回	施 策 6	<p>施策（6）「こころの教育、体験・学習機会の充実」の成果指標に、「人の役に立つ人間になりたいと思うと回答した児童生徒の割合」というのがあるが、人の役に立つことに「喜び」を感じられるような、そういった子どもを育てていくことが大切だと感じる。</p> <p>自尊感情、自己肯定感の前段階として、自己有用感というものがある。これは、「ありがとう」と声を掛けてもらうとか、役に立った喜びがあって、それが自尊感情、自己肯定感につながっていくという。体験活動は、自己有用感を先に育て、そこを満たしたうえで自己肯定につなげていくといったロジックもあるので、取り組むにあたっては、いろいろ研究していただければと思う。</p>	<p>▶成果指標は、最終段階の成果である「自己肯定感」を指し示すものとして、本市の教育プランで使用している成果指標を、子どもプランでも挙げています。</p> <p>▶「自己有用感」から段階を経て「自己肯定感」につながるというロジックも勉強しつつ、子どもに、どう関わっていけば、最終段階の「自己肯定感」につながるのか、その効果的な方策について、教育委員会の協力も得ながら取り組んでいきます。</p>
H 3 0 ・ 第 5 回	施 策 6	<p>施策（6）の柱③「児童文化科学館の移転新設」では、成果指標が「科学や技術への興味・関心を持つ児童生徒の割合」となっているが、科学館の移転新設の影響ではない別のことが影響しているかもしれない。</p> <p>もう少し普通に、人数を指標にしても良いし、あえて「評価は必要ない」といったことでも良いのでは。</p>	<p>▶施策（6）「こころの教育、体験・学習機会の充実」の「施策の柱」③「児童文化科学館の移転新設」の成果指標については、以下の通り、修正します。</p> <p>変更前 「科学や技術への興味・関心を持つ児童生徒の割合」</p> <p>変更後 「新科学館の入館者数」〔年間50万人達成〕</p>
H 3 0 ・ 第 5 回	施 策 1 0	<p>施策（10）「障害のある子どもや発達障害の気になる子どもへの支援」については、より施策を充実する意味で、障害児通所施設（特に、放課後デイサービス事業所）の質の向上について、記載した方が良い。</p> <p>また、取り組み「総合療育センターの機能の強化」については、「地域支援室」のみ言及されているが、他にも取り組みがあるので、追加してもらいたい。</p>	<p>▶施策（10）「こころの教育、体験・学習機会の充実」に掲載している取り組みのうち、「障害児通所支援の機能強化」の中で、「児童派遣支援事業所」及び「放課後デイサービス事業所において、平成30年度から導入された質の向上等に関する公表制度などを活用し、各事業所の質の向上につなげ」ることを記載しました。</p> <p>▶また、取り組み「総合療育センターの機能の強化」を「総合療育センターの機能を生かした支援」に修正し、内容についても、地域支援室に限定しない表現に修正しました。</p>

	意見・要望	対応
H30・第5回	<p>施策（11）に掲載されている取り組みに、「ひとり親家庭施策の周知」というのがある。</p> <p>ひとり親向けのガイドブックで、携帯でき、いろいろな事業が掲載されている。非常に良いものなので、地域で活動されている方にも配布いただけるとありがたい。</p>	<p>▶この取り組みは、ひとり親が利用できる制度や施設をまとめたガイドブックを作成・配布するもの等です。</p> <p>▶ひとり親に対し、必要な情報をしっかり届けることが、支援につながっていくために非常に重要なことと考えています。</p> <p>▶ひとり親に限らず、子ども・子育て支援に関する様々な支援策をしっかりと周知していけるよう取り組んでいきます。</p>
H30・第5回	<p>目標4の表現が「子育ての喜び・楽しさを得られるまちをつくる」なのに、それを構成する施策（12）は、「子育ての悩みや不安への対応」となっている。</p> <p>この施策名については、「喜び・楽しさ」につながるポジティブな表現を検討してもらいたい。</p>	<p>▶行政課題を解決するという意味では、「悩みや不安への対応」という表現も悪くないとは思っていますが、よりポジティブな表現に変更することとし、施策（12）の名称を「子育てを応援する体制づくり」とします。</p>
H30・第5回	<p>「オール北九州」で取り組む、という言葉を使用することも多くなっているが、この「オール北九州」を言うとき、本市の強みとなるのは、高齢者だと思う。子ども・子育て支援は、まさしく高齢者が活躍できる場ではないかという思いがある。今後、この高齢者の方にどのように関わってもらい、協力を得るのか、プランにしっかりと謳ってもらいたい。</p> <p>シニア世代の関わりについては、施策（12）の柱②「地域活動を支える人材の活用・育成」などに盛り込まれているようだが、どこに掲載されているか、もう少し目立つようにしても良いかもしれない。</p>	<p>▶プラン総論部分、「2 5つの目標15の施策」の「目標4」の文章の中に、「子育てに悩み家庭を支えるために、相談支援体制の充実や、<u>シニア世代等</u>地域の人材の養成・確保、ネットワークづくりを進めます。」と記載しています。</p> <p>▶施策（12）の中に人材活用の要素・内容が盛り込まれていることを想起させる表現にもなるよう、「子育てを応援する体制づくり」に変更します。</p> <p>▶なお、施策（12）の各論部分では、「現状・課題及び方向性」、柱②「子育てを支える人材の活用・育成」に、既にシニア世代の参画について明記しています。</p> <p>▶このほか、取り組みとして、「シニア世代による子ども・子育て支援活動の促進」を新たに盛り込み、シニア世代の参画を強めていこうと考えています。</p>
H30・第5回	<p>施策（14）の柱①「事業者等との共同による仕事と生活の調和の推進」では、「仕事と生活」という視点からワーク・ライフ・バランスを捉えてはいるが、「生活・ライフ」に含まれる地域活動や趣味の時間を、子育てしている方たちへの支援・活動に使っていくのだ、ということまで含まれているように感じられ、非常に良い表現だと思う。</p>	<p>▶親は、自分の子の保護者であるとともに、育児の経験を通じて、他の子育て中の人を理解することのできる先輩であり、地域コミュニティの一員である、という視点は、大切だと考えています。</p> <p>▶地域に支えられた人が、今度は支える側になる、という共助の精神がもっと育まれるよう、地域の人材の活躍の場を広げていきます。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 ・ 第 5 回	施 策 1 5	<p>施策（15）の「子どもの安全を守る環境整備」の柱②は、「安全・安心を実感できるまちづくりの推進」という表現になっているが、防犯や交通安全はイメージできるが、防災までは思いつかない。別の表現に変えてはどうか。</p> <p>災害への備えや、災害時の対応については、市の支援の充実だけでなく、保護者への意識づけも重要であると思う。</p>	<p>➤施策（15）の柱②を「安全・安心を実感できる防犯・防災のまちづくり」に変更します。</p>
H 3 0 ・ 第 5 回	そ の 他	<p>妊娠者の中で、精神科の受診が必要な方も多くなってきているように感じている。</p> <p>また、児童虐待についても、家庭内で精神的な問題を抱えていることも多いと感じている。</p> <p>今後、こうした取り組みを行うにあたっては、ぜひ、精神科医の協力を得ていくということについて、検討いただければと思う。</p>	<p>➤施策の方向性の中に、具体的な形で盛り込むことまでは行っていませんが、ご意見を踏まえ、家庭にとって必要と考えられる効果的な方策について検討を行ってまいります。</p>
H 3 0 ・ 第 5 回	そ の 他	<p>自分の立ち位置がどこにあり、子どもたちのために何ができるのかが分かる「ガイド」のようなものがあると良い。</p> <p>一人の子どもの成長、一つの家庭の成長・変化に、各専門職がどう関わるのか、そういった議論があっても良いと思う。</p>	<p>➤プラン総論で、家庭、地域、学校、企業、行政のそれぞれの役割について掲載しています。理念的なものについては、この部分で示すことができると考えています。</p> <p>➤具体的に「何ができるのか」については、具体的にプランに掲載することは難しいところですが、施策（12）の「現状・課題及び方向性」の中で「地域の支援体制を強化しつつ、・・・人材の活躍の場を拡げていきます。」との記載も行いました。こうした方向性に基づき、地域での活動の場やその内容等に関する情報提供に取り組んでいきます。</p> <p>➤「母子保健の充実」「幼児期の教育・保育の充実」など各施策ごとに中心的役割を担う専門職があり、施策をみれば、ある程度それぞれの施策に関わる専門職をイメージすることができると考えています。</p> <p>➤この専門職の関わり方について、より詳細にプランに掲載することは難しく、策定後に実施する施策ごとの評価の中で、専門職がどのように関わり、どういう成果につながっているのか、具体的に示すことができないか、検討を行ってまいります。</p>

		意見・要望	対応
H 3 0 . 第 5 回	そ の 他	<p>&lt;パブリックコメントについて&gt;</p> <p>より良いプランにするためにも、パブリックコメントについては、丁寧に対応してもらいたい。</p>	<p>▶パブリックコメント一つひとつの反映状況、対応状況について対応することとしています。子ども向けの資料も準備しています。丁寧に対応していきます。</p>
R 1 . 第 1 回	支 援 . 事 業 計 画	<p>教育・保育について、保育士の確保が難しく、子どもたちにとって良質な環境とはいえない所も出始めている中、市として、質の向上を目指すという思い、市の本気度が伝わってきた。</p> <p>ただ、数字（今後の量の見込み）を見ると、引き続き、保育等を必要としている子どもたちはいる。市、幼稚園、認定こども園、保育所が協働し、人材確保に取り組んでいくことが必要である。</p>	<p>▶子どもプラン「第2次計画」策定時のH26年度は、待機児童が増えている状況でした。その結果、どうしても「量の確保」に重点を置いた計画になりました。</p> <p>▶しかし、この4年間で、3,113人分の定員の拡大を行ってきたことにより、3月時点（年度末）の待機児童についても、減少に転じています。また、昨年度は、4月だけでなく、10月時点の待機ゼロも達成しました。</p> <p>▶したがって、次期プランでは、必要な老朽改築は行いながらも、質の確保に重点を置き、10月の待機ゼロを引き続き達成するという目標に向かって取り組んでいきます。</p>
R 1 . 第 1 回	支 援 . 事 業 計 画	<p>〔教育・保育、一時保育について〕</p> <p>これだけ一時保育の受け皿が用意できているのであれば、保育認定「短時間」の方はできる限り一時保育の利用をしてもらった方がよいとも思う。</p> <p>そのためにも、保育所入所の優先順位を決定する際の点数について、配点の見直しを検討してはどうか。</p>	<p>▶点数については、現在、勤務時間によって差を既に設けており、配点の見直しについては、今後の研究課題とさせていただきます。</p>
R 1 . 第 1 回	支 援 . 事 業 計 画	<p>〔放課後児童クラブについて〕</p> <p>放課後児童クラブで、障害のある子どもを預かるとなると、さらに指導員の確保が難しくなる。</p> <p>放課後児童クラブについては、国において、指導員配置について緩やかにしていいという動きがある。北九州市では、人材確保の問題はあるが、質の担保については、引き続きお願いしたい。</p>	<p>▶放課後児童クラブの指導員については、国の定めた基準は、これまで「従うべき基準」として、守らなければなりませんでしたが、来年の4月から「参酌すべき基準」に変更され、自治体の条例を定めれば、各自治体の実情に合わせた基準で良いということになります。</p> <p>▶しかし、本市では、これまでどおり、国基準通りの配置とし、運用を行っていきます。</p>

	意見・要望	対応
R1・第1回	<p>社会的養育推進計画</p> <p>里親委託について、今回、次期プランの数値目標、委託率29.4%を設定しているが、これは、数字上では、そういう算定をするが、その中身については、絶えず吟味しながら行うという形をお願いしたい。</p>	<p>➤この委託率の数値目標というのは、社会的養護が必要な子どもたちにとって、数値目標達成のために、里親さんに機械的に措置されるものではないと考えています。</p> <p>➤児童の特性や成育歴、保護者の意向など、子どもの抱える背景がそれぞれ異なること、また、受け入れ側の意向も踏まえながら、その子どもにとって最も適した生活環境を提供していきたいと考えています。</p>
R1・第1回	<p>社会的養育推進計画</p> <p>里親制度そのものだけではなく、里親が子どもの育ちにどのような効果・影響を与えるのかなど、数値目標の陰に隠れている実態を踏まえて、取り組みを進めていただきたい。</p>	<p>➤里親の委託等を進めるにあたっては、子どもの育ちにとって良い環境を提供することができるか、という視点をもって、取り組んでいきます。</p>
R1・第1回	<p>社会的養育推進計画</p> <p>子どもの育ちのことを考えると、やはり少しずつ家庭的な環境で育つ子どもたちが増えていくといいな、という願いがある。</p> <p>数値目標は、「これぐらいならできるかな」という目標ではあるが、増えていくといいと感じている。</p>	<p>➤児童福祉法の中で、「家庭的養育優先原則」ということが示されており、子どもを家庭的な環境で育てる方向で進めていくこととなります。</p> <p>➤そういった中でも、北九州市の実情を踏まえ数値目標を設定し、取り組んでいきます。</p>